

捲く。

そのあとは1~3mの小滝が続き、2段5mの滝を越えると、はじめて枝沢が左岸より入る。水量比は4:1くらいである。やがて右岸に枝沢が入ると、その上部は1~2mの小滝が時折出てくる程度となる。

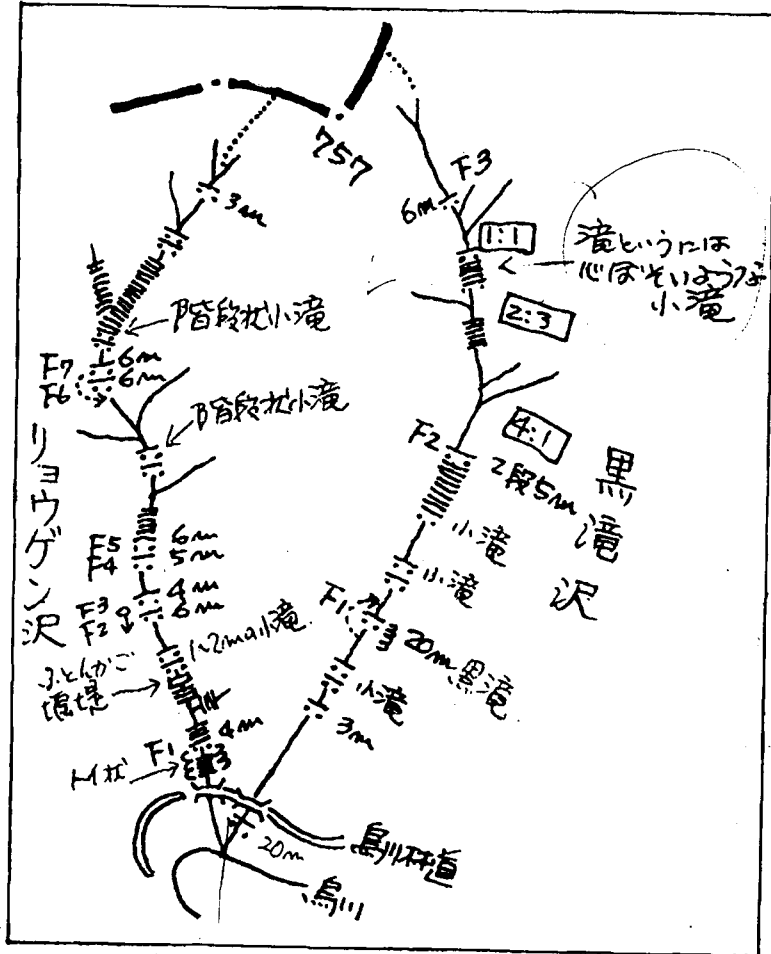
10:05 二俣に分かれる。私達は757ピークに突き上げる左俣を進む。すぐに左岸から小沢が入り、6mの滝にぶつかる。左岸を楽に直登できる。

沢は源頭の様相をみせ、15分も進むと水は濁れて沢

も終わりとなる。そう濃くもない藪を15分程こいで、757ピーク近くの尾根に出る。

(記・)

[タイム] 烏川林道ゲート(8:25)→第3号橋(8:45, 8:50)→遡行終了(10:25)→757ピーク(10:40)



リョウゲン沢

1985年6月23日

LJ

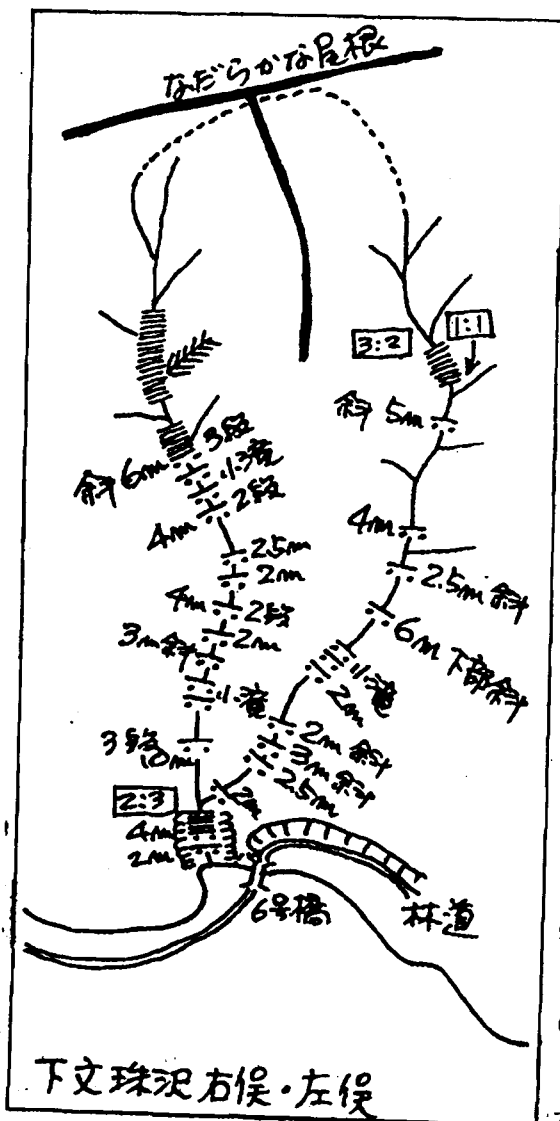
757ピーク西方の鞍部からリョウゲン沢への下降に入る。沢に入るまでは急斜面で、立木を利用しながら慎重に下る。

沢に入ると、最初のうちは2~3mの小滝、さらには6m級の滝と、適当に出

現する。階段状であるので、クライミングダウンしたり、ブッシュを利用したりで、快調に降りることができる。途中6m級の滝1本をアップザイレンで下ると、そう大きな滝はなくなる。

倒木にうまった小滝をいくつか越すと、針金で編んだ網みの中に石をつめて積んだ「ふとんかご」堰堤が出てくる。注意して見ないと見逃すほど古い小さな堰堤である。

それを過ぎると、1~2mのナメ状の小滝が連続する小さなゴルジュ。そしてその先は小滝をいくつか越してトイ状の流れとなる。両足をふんばりながら通過すると、すぐ鳥川林道の第4号橋である。



このリョウゲン沢は、沢の長さの割に滝が多く、ほとんどが直登できる。登りの沢として使った方が楽しいのではないかと思う。

(記・)

[タイム] 下降開始(10:55)→第4号橋(12:55)

下文珠沢右俣

1985年9月28日

L系

飯坂温泉からバイクを使って下文珠沢へ。1時間程で鳥川林道6号橋へ到着。身仕度を整えて、林道から踏跡にそって下文珠沢出合に降りる。

出合に立つと、連瀑となって滝がかかる。左岸なら濡れなくて登れるが、今日はシャワークライミングを楽しみながら直登する。

すぐ二俣となる。右俣には2m程の小さな滝がかかっている。水量は、2:3で右俣の方がいくらか多い。右俣に入って遊行を続ける。